

2020 核廃絶広島会議 発言原稿

発言希望プログラム：会議 I ・ **II** ・ III
(希望プログラムに○をしてください)

都市・団体名：非核の政府を求める京都の会

よみがな：..... はせがわ おさあき

発言者お名前：長谷川 長昭

私は「非核の政府を求める京都の会」と「核兵器廃絶ネットワーク京都」の事務局をしている長谷川といたします。

最初に、昨年 11 月には秋葉忠利広島市長さんに、今年 6 月には広島平和文化センター理事長ステューブン・リーパーさんに京都に来ていただき、素晴らしい話をさせていただき、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私は、お二人の講演会を準備するなかで、京都における反核平和に取り組む団体・グループ＝NGO の協同の輪が大きく広がり、自治体との連携が一段と進んだことを報告したいと思います。

まず、秋葉広島市長講演会についていえば、その実行委員会を京都の YMCA、YWCA、京都生協連、IPPNW 京都などをふくめ 14 団体で結成しました。そして実行委員会は、府内 27 自治体のすべてを訪問し、講演会への出席、メッセージの送付、そして平和市長会議への加盟を呼びかけました。

講演会で秋葉市長は、地方自治体レベルでの核兵器廃絶運動をすすめることの意義を強調され、「2020 ビジョン」の説得力あるお話を展開されました。参加者は 450 人ほどのほり、京都市長、宇治市長、大山崎町長からメッセージがよせられ、また 7 つの自治体の平和担当部局の方々が参加されました。京都においては、こうした自治体と NGO との交流・協同の催しは、近年にはないことでした。それができたのは平和市長会議の存在意義を前面に押し出して取り組んだからだと考えています。

これに自信をえた私たちは、NPT 再検討会議直前に「古都・京都から核兵器廃絶にむけた世界の人びとへのアピール」運動に取り組みました。呼びかけ人には、益川敏英さん、瀬戸内寂聴さんら京都在住の各界代表 12 人になってもらいました。その呼びかけでは「原爆投下の候補地でもあった日本の古都・京都の地から世界の各国の指導者、そして地球上のすべての人びとに向け、核不拡散条約（NPT）再検討会議において、期限を切った核兵器廃絶条約の合意が達成されることを心から訴えます。」といった点を強調し、短期間に京都在住の著名人を中心に 272 人の方から賛同いただきました。このアピールを英語に訳して NPT 再検討会議要請団に託し、5 月 2 日にドアルテ国連軍縮問題上級代表に直接手渡し、ニューヨークにおけるパレードや署名活動中に約 800 枚を手渡すことができました。

次に今年の 6 月 23 日には、ステューブン・リーパーさんに京都に来ていただき、NPT 再検討会議の報告集会を兼ねた講演会を開催しました。自治体の担当部局にも案内状を送りました。リーパーさんは、NPT 再検討会議の合意内容を分析・評価され、草の根の反核平和運動が大きな役割を果たしてきたことを強調されるとともに、さらに運動のレベルアップの緊急性についてお話いただきました。

以上、この一年間の三つの取組みを通して、京都における反核平和に取り組む団体・グループの相互信頼が深まり、自治体との連携も広がりました。しかし、まだ日本政府に唯一の被爆国の政府にふさわしい国際的立場に立たせるところまで至っていません。このためにも京都の地において反核平和運動に取り組んできた団体・グループとの協同の輪を更に広げ、自治体との連携を一層強化してゆく決意を述べ、発言を終わります。 (以上)